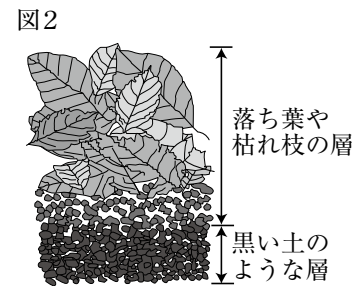
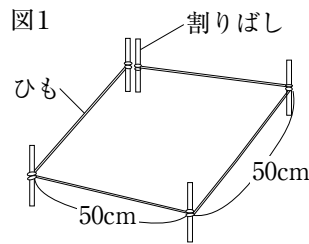


5 総合力を磨く

学習日 /

1 土壤動物を指標として、自然環境の状態を調べた調査について、あとの問いに答えなさい。〈宮城・一部略〉

〔調査〕1 本州の温帯に位置するある地域において、自然公園内の2地点を調査地P、Qとし、工場敷地内の1地点を調査地Rとした。それぞれの調査地内に、図1のように割りばしとひもで同じ広さになるように作成した正方形のわくを設置した。



- 2 1で設置したわく内から、図2で示した落ち葉や枯れ枝の層を全て集めて採取した。さらに、スコップを使い、わく内の落ち葉や枯れ枝の層の下にある黒い土のような層を10cmの深さまで全て採取した。
- 3 2で採取したそれぞれの層から、土壤動物を集め、その中から自然環境の状態の指標となるとされている32種類の土壤生物を探し、採集した。
- 4 3で採集した土壤動物を、自然環境が変化したときの影響の受けやすさをもとに分けられたA～Cのグループ区分に従って分類し、採集結果を表1にまとめた。ただし、○印は採集できたことを表すものとする。
- 5 表1の結果から、自然環境の状態を判定した。
(青木淳一「だれでもできるやさしい土壤動物のしらべかた」などをもとに作成)

表1 32種類の土壤動物の採集結果

指標となる土壤動物		調査地P	調査地Q	調査地R
Aグループ	1 ザトウムシ			
	2 オオムカデ		○	
	3 リクガイ	○	○	
	4 ヤスデ	○	○	○
	5 ジムカデ		○	○
	6 アリヅカムシ	○	○	
	7 コムカデ		○	
	8 ヨコエビ	○	○	
	9 イシノミ			
	10 ヒメフナムシ			
Bグループ	11 カニムシ			
	12 ミミズ	○	○	○
	13 ナガコムシ			
	14 アザミウマ	○		○
	15 イシムカデ	○	○	○
	16 シロアリ			
	17 ハサミムシ			
	18 ガ(幼虫)			○
	19 ワラジムシ	○	○	○
	20 ゴミムシ	○		
	21 ゾウムシ	○	○	
	22 甲虫(幼虫)	○	○	
	23 カメムシ	○		
	24 甲虫(成虫)	○	○	○
Cグループ	25 トビムシ	○	○	○
	26 ダニ	○	○	○
	27 クモ	○	○	○
	28 ダンゴムシ	○	○	○
	29 ハエ・アブ(幼虫)	○	○	○
	30 ヒメミミズ	○	○	○
	31 アリ	○	○	○
	32 ハネカクシ	○	○	

□(1) 調査の1で、下線部のように作成した理由を、簡潔に答えなさい。

[]